

離れて暮らす親がいる子世代における高齢者の見守りニーズに関する研究

—緊急通報・安否確認機器による高齢者見守りサービスに関する研究—

高齢者 親子の居住状況 見守り

正会員 ○永野浩子*¹ 正会員 村田幸隆*²
 同上 齋藤茂樹*¹ 同上 深尾精一*³
 同上 秋林 徹*¹

1. 調査概要

高齢者等の見守りサービスに対する見守り側のニーズを把握することを目的とし、離れて暮らす親のいる子世代を対象にアンケート調査を実施した。(表1)

なお、本調査における「見守りサービス」とは、住宅に設置された機器による緊急通報サービス及び安否確認サービス、並びにこれらに付随する駆けつけサービスのこととしている。

表1 アンケート調査概要

調査方法	インターネット調査会社に登録しているモニターを対象にアンケート調査を実施した
調査期間	予備調査:平成23年12月9~11日 本調査:平成23年12月16~18日
本調査対象	次の全ての条件を満たす30~64才までの男女 1)65才以上の親がいる 2)親と同居していない人 3)親が施設入所または病院に入院していない
回収数	予備調査 9,975 本調査 1,500 ※サンプルは、国勢調査及び住宅・土地統計調査を参考に、地域別、年間収入階級別の分布が全国の実態に即するように抽出した。また、性別も男女が同数になるよう抽出した。
調査項目	離れて暮らす親への心配度 見守りサービスへの加入状況(現在・今後の意向) 加入しない理由(現在・今後の意向) 加入を検討する場合の重視事項・価格帯 自由記入など

2. 回答者の属性

回答者の年齢は、40代が約5割(48.8%)を占め、次いで50代の約3割(28.5%)となっている。(図1)

親の年齢は、70~74・65~69・75~79がそれぞれ全体の約4分の1となっている。(図2)

親の住まいまでの時間は、「1時間以上かかる」と答えた人が全体の48.5%となっている。(図3)

3. 見守りサービスの加入状況と今後の加入意向

1) 見守りサービスへの加入状況

現在、既に見守りサービスに加入している人は、「緊急通報サービス」で3.5%、「安否確認サービス」で1.0%とごく一部である。これらの見守りサービスについて「検討したことがなく、加入もしていない」が大多数を占めている。(図4) 親の年齢別では、親の加齢に伴い加入または検討している割合が高くなる傾向がある。

2) 今後の加入意向

今後の加入以降については、「必要と思う時期が来たら

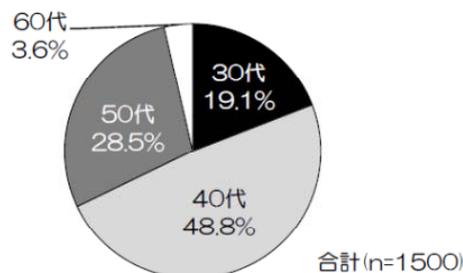


図1 回答者(子)の年齢

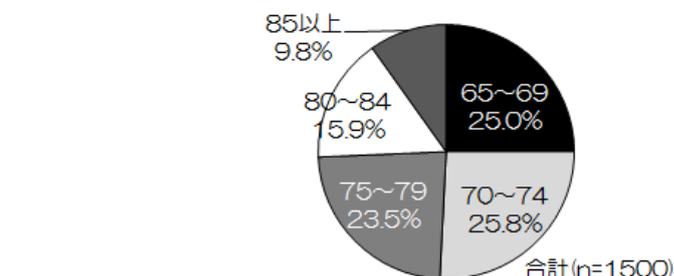


図2 離れて暮らす親の年齢

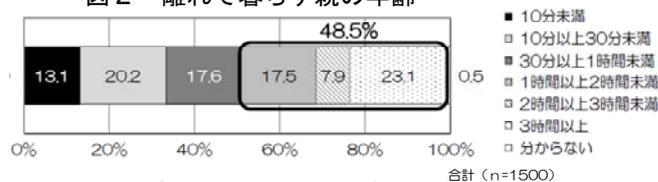


図3 親の住まいまでの時間

加入したい」が45.9%で最も多く、「すぐにも加入したい(0.8%)」と「数年以内には加入したい(3.9%)」を含めた「加入に肯定的」な人が過半数となっている(図5)。親の年齢別では、親の加齢に伴い「数年以内には加入したい」と考える方の割合が高くなる傾向にある。

4. 見守りサービスに加入しない理由

1) 現在、見守りサービスに加入していない理由

見守りサービスに加入していない理由は、「まだ自分の親には必要ない(時期尚早)と思うから」が最も多く、次いで「親の住まいの近所あなたやあなたの兄弟・親戚等がいるから」となっている。(図6) 親の年齢別では、親の加齢に伴い「時期尚早」は減少し、「親の住まいの近くに見守り者がいる」が増加する傾向がある。現時点においては、親の加齢により見守りの必要が高まると、見守る人が同居又は近居をして対応していると推察できる。

2) 加入を検討しない理由

加入意向に対して、「(将来的にも)加入を検討する予定はない」とした417人にその理由を尋ねた。「親の住まいの近所に、親を見守ってくれるあなたの兄弟や親戚が

いるから」が 37.4%と最も多く、次いで「見守りが必要な時期が来たら、あなたやあなたの兄弟などと同居を考えているから」が 24.2%となっている。「その他」も 18.2%あり自由記入では、「まだ自分の親には早い」「今は二人暮らしだから必要ない」時期尚早とする意見が多かった。(図 7)

5. 自由記入から読み取れるニーズ

自由記入からは、いざという時の心配と、日常生活上の心配が読み取れた。通院の支援や室温調整など、離れて暮しながらも親の日々の暮らしに寄り添いたいというニーズが見受けられる。(表 2)

表 2 自由記入の主な意見

- ・夜中急変したときが心配。昼間は電話で連絡をとるからよい。(60代男性、親 90代前半)
- ・急に意識をなくして倒れることが心配。(50代男性、親 80代前半)
- ・離れて暮らしているので、緊急の場合、連絡がとれても間に合わないことが心配。(40代男性、親 70代後半)
- ・具合が悪くなくても連絡できないまま何日もたったりすることが心配。(50代女性、親 80代前半)
- ・毎朝ちゃんと起きているかがわかればよい。(50代男性、親 70代後半)
- ・定期的な訪問をしてもらえるとよい。(50代女性、親 80代前半)
- ・親が軽い認知症を患っているため、病院に行ったかどうかを確認してくれるとよい。(40代女性、親 70代前半)
- ・時間になったら窓が開く等、室温管理、室温調節できるようにしてもらえると安心。(50代女性、親 80代前半)
- ・親は妹と同居しているが、妹の不在時のみ通報サービスを利用したい。(50代男性、親 80代前半)

6. 考察

見守りサービスに加入しない理由として、時期尚早をあげる人が多かった。しかしながら、介護保険を利用する要介護者が、介護が必要となった年代と要因をみると注1、女性に比べて男性は 70代から要介護となる比率が高く、要因別では、男性は「脳血管疾患(脳卒中)」が 70代から増加している。このため、家庭で異変が起こった場合の備えは、70代より求められているのではないだろうか。合わせて、家庭内で異変が起こりづらくなるよう、バリアフリー化や温熱面の自宅の環境整備を進めていくことも大切である。

また、本報告では、離れて暮らす親がいる子を対象に調査を行ったが、子どもがいない高齢者も多く存在すること、及び高齢者とその子どもが負担可能な費用には個人差が大きいことに留意する必要がある。見守りが必要な高齢者が激増する中で、一人ひとりの高齢者及びその家族が、心身状態や家族のニーズの変化に応じて、必要な見守りを選択することができるよう、見守り活動・サービスを一層促進していくことが求められる。

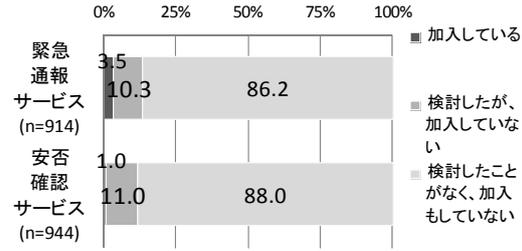


図 4 見守りサービスの加入状況

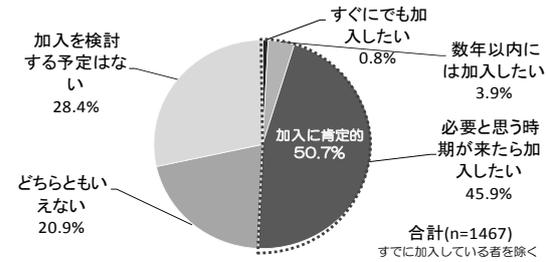


図 5 今後の加入意向

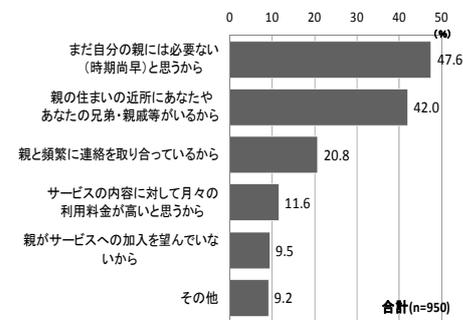


図 6 現在、見守りサービスに加入していない理由(複数回答)

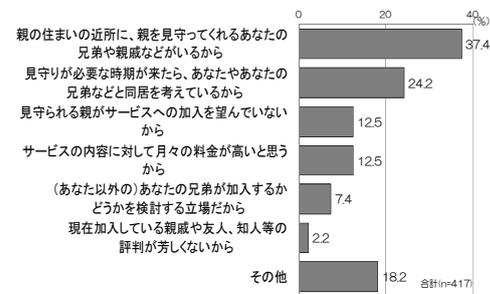


図 7 将来も、加入を検討しない理由(複数回答)

注

注1：平成 22 年国民生活基礎調査

参考文献

- 1) 財団法人ベターリビング「都道府県と市町村等との連携による公的住宅団地を活用した安心住空間支援システムの構築事例に関する調査研究事業」平成 21 年 3 月
- 2) 財団法人ベターリビング「公的住宅団地を活用した見守りサービス拠点および福祉サービス拠点の構築に関する調査研究」平成 22 年 3 月
- 3) 一般財団法人ベターリビング『「緊急通報・安否確認システムによる高齢者の見守りサービスに関するニーズ調査結果」プレスリリース』平成 24 年 11 月

*1 一般財団法人ベターリビングサステナブル居住研究センター
 *2 一般財団法人ベターリビングサステナブル居住研究センター技術顧問
 *3 一般財団法人ベターリビングサステナブル居住研究センターセンター長

*1 Center for Better Living, Sustainable Living Research Center
 *2 Technical Adviser of Sustainable Living Research Center, Center for Better Living,
 *3 Director of Sustainable Living Research Center, Center for Better Living,